

H25. 5. 11

被害や嫉妬の言動



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。54歳。

不思議なものです。高齢女性
 性が認知症になると「嫁が財布を取った！」と必ず言います。こうした「もの取られ妄想」に代表される被害妄想は、それだけで認知症だと分かるくらいです。嫁はそんな姑を「あなた、あんなお母さん、早く施設に入れて！」と泣き叫び、夫は戸惑います。町医者をしていて、その仲介に入ることが時にあります。施設では、熱心な介護職



「認知症ケア」シリーズ⑧

もの取られ妄想への対応

実は被害妄想も嫉妬妄想も、認知症の根幹にかかわる言動です。私たちはそうした

妄想をどう考え、どう対応すればいいのでしょうか？
 まず「もの取られ妄想」に隠された3つの背景を知りましょう。
 ①近い記憶が失われて、最も身近な人を犯人と思い込む。
 ②年下の家族の世話になるという屈辱、不安、反発。
 ③周囲が認知症の人が置かれている状況を理解しないまま対応することの間違い。

このような場合、高齢者から何かを教わるという態度が肝要です。
 介護を一人で抱え込まず、デイサービスやデイケアなどを上手に利用することも大切です。在宅介護では「抱え込み」が時々見られます。人間関係を決して閉鎖的にせず、外に開くことが大切です。

「否定」ではなく、「共感」する態度が最も大切なことです。本人の主体性を重く扱い、自信を回復させることが肝要です。
 介護を一人で抱え込まず、デイサービスやデイケアなどを上手に利用することも大切です。在宅介護では「抱え込み」が時々見られます。人間関係を決して閉鎖的にせず、外に開くことが大切です。

妄想の裏には「介護されている自分を否定したい」気持ちがあるのです。
 妄想とは「関係性を逆転しようとする試み」です。「関係性の反撃」とも言えます。介護する人が妻であった場合、嫉妬妄想となります。閉鎖的な空間で妻が献身的に介護している場合に、そのような言葉が出やすいのです。

被害や嫉妬妄想への対処法を考えてみましょう。「勘違

「あれ？何か違うかな？」
 「あ、いいえ、大丈夫です。」
 「大丈夫です。」
 「大丈夫です。」
 「大丈夫です。」

ひょうい